

2019年（令和元年）9月6日（金曜日）

知識の 技術倉庫

▷18◁

2019年 9月 6日 金曜日

 埼玉新聞社 〒331-8686 さいたま市
本社代表 北区吉野町 2-282-3
048・795・9930

第26827号 ©埼玉新聞社 2019

©埼玉新聞社 2019

■建設業の就業者数の動向

建設業の就業者数は、平成28(2016)年の統計では492万人となり、ピーク時の平成9(1997)年から0年には21万人になるとの予測で減少を続けており、2003年に人手不足が顕在化していくと、建設業においても例外ではなく、技能労働者(一般に職人と呼ばれます)を中心とした人手不足が声高に叫ばれるようになっています。元来、建設業は生産活動の多くを人の手に委ねることの多い産業であり、人手不足はさまざまな影響を及ぼします。

建設業の就業者数が減少する原因は、主に高齢化による労働者が減少したことによるもので、技能継承が大きな課題となっています。例えば、木造建築を担う大工は、1年に1万人のペースで減少を続けており、2003年には21万人になるとの予測です。このうち、技術者は31万人となり、就業者の約66%を技能労働者が占めていることが分かります。一方で、技能労働者のうち55歳以上が約30%、29歳以下が約11%と、他の産業と比べても高齢化が顕著と言えます。高齢化に伴つて、今後10年間で約30%の離職が予想され、労働力不足が懸念されるとともに、技能継承が大きな課題となっています。



大塚秀三建設学科教授

人によるものづくりの行方

おおつか・しゅうぞう 1970年生まれ。川口市立正建築研究所を経て2001-3年、日本大学大学院理工学研究科博士後期課程修了。博士（工学）。18年4月より現職。専門は建築材料施工、コンクリート工学。

りの様相の変化
建設業は、人

お聞かせします。

これまでハブル期には建設

ヒンターナミニ紐(ひも)

「人によるもの(アーティスト)」を基
リート工事につけたのは、最
終工事を対象として、*Construction*と銘打た
れた工種としているので、あ
る程度の構造物へコン
クリートを打ち込む際に10
人の技能労働者の人手を必
要にしています。

三、めでたれ！

ませんでした。
これに対する「
ターの急速な性能
と、IOT、ICT
工能性」、ロボット

ノルマ

あります。「人によるもの」で、
くらいを標準とする本学にて所掌
する立場としても、今後の動
向に積極的に向き合っていか
たいと思います。

人によるものづくりの行方

おおつか・しゅうぞう 1970年生まれ。川口通正建築研究所を経て2013年、日本大学大学院理工学研究科博士後期課程修了。博士（工学）。18年4月より現職。専門は建築材料施工、コンクリート工学

施工技術を稼働させるため
基礎技術が十分に足る性能把
有しておらず、現実的なコラ
ト内での稼働が難しかった
とが一因として挙げられま
す。ほかにも、重機や電動工具
の活用、部材の部品化など
ものの、本質的には人手に頼
る部分が多く、必ずしも大綱
に合理化できる手法とは言ひ

これは、コンピューターの能力や情報通信技術などの本

して普及する可能性が高まります。

測も出されています。このように建設業者のうち、最もが強く、多くの作業を人の手多くを占める技能労働者の減に委ねて生産されます。例え導の下、実施されている生産これに対し、平成28(2)年より国土交通省主

会社各社による自動施工化技術の開発がトレンドとなつたこともありましたが、一般化されたままの手法が現実のものと

2019年 9月 6日 金曜日

 埼玉新聞社 〒331-8686 さいたま市
北区吉野町 2-282-3
本社代表 048・795・9930

第26827号 ©埼玉新聞社 2019

©埼玉新聞社 2019